

限定されたストーリーからの解放 ～婚約不履行の怒りにとらわれたある男性～

家庭問題情報センター 佐藤 友枝子

弘さんは四十二歳の独身男性です。婚約していた女性との関係がこじれ、慰謝料を求める調停を申し立てていました。初回の調停に相手は欠席したと、憤りながらある相談機関を訪ねてきました。弘さんは「婚約者に裏切られた」というストーリー以外は見えていない様子です。

弘 彼女にはこれまで八年間生活を見てあげて、実家の親や親戚にも婚約者として紹介してしまいました。それなのに、彼女との関係がぎくしゃくし始めると、それまで、何もしていなかった彼女の父親が出てきて、当時未成年だった娘をかどわかしたみたいなことを言い始めました。

慰謝料が欲しいのは僕の方です。彼女が調停を欠席したことも頭に来ています。訴訟をするにはどうしたらいいのでしょうか。

カ (カウンセラー) では、まず、弘さんと女性が出会った経緯から教えていただけますか。

弘 出会いは、彼女が高校を卒業したばかりの十八歳、僕は初めの結婚が離婚となり二年を経過した三十四歳の頃です。

彼女の家族は両親が離婚、姉とともに再婚した父親に育てられました。家族と不和となり家出、高校も出席ギリギリでどうか卒業したものの、卒業後の進路は定まっていまませんでした。僕の友人の後輩だったことから知り合い、居場所のない彼女に同情して部屋を提供、彼女はアルバイトをしながら専門学校に通い始めました。でも、三年間は性関係はありませんでした。

た。

カ その頃のあなたの彼女へのお気持ちはどのようなものだったのですか。

弘 年齢も離れていましたし、とにかく居場所のない彼女が危なっかしくて見てられない感じでした。

ただ、割合真面目な子で、専門学校で資格を取りたいとも言っていましたから、もう少し成長すれば大丈夫だろう、それまで少し世話してあげよう…

カ 生活費は、どうしていたのですか。

弘 アルバイトをしていましたが、もちろん足りない。入学金は、姉に借りていましたが、僕も食べる分はほとんど見てあげていました。

彼女も気にしていましたが、いいよ、ちゃんと働くようになったら返せよ、みたいな感じで…

カ そういう関係が変わり始めたのは、いつですか。

弘 彼女が専門学校を卒業して、派遣で仕事が仕事も始めて、それでも僕のマンションから出ると言い出すでもなく暮らしていて、僕も実家の両親から、見合いの話を言われたりして…その頃ですね、お互いに結婚を意識するとか…実家にも、婚約者として連れて行き、彼女も、僕の両親をお父さん、お母さんと言って甘え、かわいがってもらうようになりました。

カ 性関係も？

弘 そうですね、関係は持ち始めました。た

だ、それまで、ずっとなくて暮らしていましたが、僕の気持ちとしては、彼女の父親にちゃんと会って挨拶をして…という思いがあつて、年に数回、普通の同棲しているカップルからすれば、すごく少なかつたと思います。

父親に挨拶したいということは、彼女にも言っていたんですけどね。なぜか、会わせようとしないうですよね。姉さんには会ったんですけど…

力 彼女の中にごか結婚をためらうような気持ちがあつた感じなですか。

弘 今から思うとそんな気持ちがあつたようです。僕が、お父さんに挨拶をして入籍しようと言つと、父親には会いたくないと言つて話題を避けたがるよう。

でも、不思議だつたのは、父親を嫌つているのに、たまに小さい頃の話をする、父親のことが出てきて、ホントは嫌つていないのかなと思つてあります。

力 なるほど。婚約という関係がそんなふう

弘 そういうことですね。

力 それがこじれたというか、ぎくしゃくし始めたのは？

弘 彼女が、他の男性と付き合い始めたからです。今はもう別れたらしいんですけど…僕も、その時は非常に腹が立つて、そんな気持ちなら出て行つてくれ、これまで世話をした金も返してくれと。

力 それで？

弘 彼女は姉さんに相談して、姉さんが父親に相談して。彼女は継母と不和でしたから、父親のもとには帰らず、独立していた姉宅に戻りましたが、父親が未成年だった娘をかどわかしたみたいなのを言い始めて、冗談じゃないと。

力 なるほど。あなたにしてみたら、危なかしくて見てられなかつた彼女を守つてあげたというお気持ちだつたの。

弘 そうです、その通りです。

力 そのお気持ちと調停を申し立てられたことは、どのように関係しているのですか。

弘 本当は、一番腹が立つたのは、父親に対してで、父親からこれまで僕が彼女に使つた金を返してもらいたくないような気持ちでした。でも、それを求めても無理でしょうから、彼女に婚約不履行による慰謝料を求めました。

力 彼女への憤りは、彼女の父親への憤りの次なんですね。

弘 うーん、そもも言えますね。

僕も、彼女とこんなふうになつていろいろ考えたんですけど、初めは、ひどい父親だ、僕が守つてあげなければ…みたいな気持ちがあつたし、多分、彼女も、僕の中に父親みたいなものを求めていたのかなと。それと関係するかどうか分らないのですが、彼女がつきあつた男というのが、五十歳の男なんです。

僕も、実家の両親からの見合い話に影響されて、彼女を婚約者にしてしまったよう

な気がします。彼女が僕との結婚をためらつたのも、僕のそんな気持ちを感じていたのかもしれない。

弘さんは、自分が何に腹を立てているのか、彼女が弘さんに何を求めていたのかについて、二時間の相談の中で十分に気づいたようでした。そして、彼女がサプライズで弘さんの好物を料理してくれたことなど、二人の暮らしの中でほほえましい思い出も語り、「婚約者に裏切られた」という限定されたストーリーを超えたひろい視点から自らの人生を見直すことができた様子でした。

相談後まもなく行われた調停には彼女も出席し、彼女が婚約不履行を謝罪し、弘さんが関係破綻の間に彼女に貸した中古自動車の購入のための頭金三十万円を分割返済するということ、調停が成立したということでした。

人は時に自らの人生をあるストーリーで組み立て限定してしまします。しかし、人の実際の人生は、限定されたストーリーよりもはるかに豊かな体験の総体であり、そういった体験を拾い直すことが、限定されたストーリーを超えてゆく力に繋がつてゆくのです。

カウンセリングは、クライアントが限定されたストーリーから自らの人生を解放していくプロセスとも言えるように思います。